



2013

VOL.40  
(通巻102号)

ART NEWS

千葉県立美術館報



館長 中里 文男

当館は昭和49（1974）年10月23日の開館以来、地域美術館及び近代美術館としての活動を通し、県民の皆さまのさまざまな美術に対する御要望にお応えできるよう事業を展開してきました。

本年度で開館から39年が過ぎましたが、その沿革を顧みると、その時々々の社会情勢の影響を受けながらも、県民の皆さまに親しまれ、より充実した美術館活動を目指し、現在に至っています。

昭和44（1969）年に第1回千葉県立美術館建設懇談会が委員15名で開催されたのを原点とし、当初は千葉公園内美術館基本構想が成立していたものの、体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となり、その代案として千葉市中央港埋立지가提示され、昭和47（1972）年、県立美術館建設地に決定しました。それを受けて、展示棟杭打工事が着工、翌48（1973）年に教育庁文化課に美術館準備班が置かれ、開館事務を開始するなど、着々と美術館開館に向けて準備がなされ、開館後も、県民アトリエ棟竣工、展示棟、収蔵庫、機械室、周囲の植栽など漸時各施設を整備しつつ、千葉県美術展覧会や管理棟完成記念特別展、彫刻の野外展示、各種展覧会を開催するという経緯をたどってきました。

海に近い立地であるのに加え、長年風雨にさらされた施設は老朽化し、地震災害に備えるために、施設の耐震改修等について内外より強く望まれてきましたが、平

成18年度の耐震診断の結果、耐震強度不足が指摘され、建築・電気設備・空調設備等の改修工事を行う運びとなりました。

そして平成24（2012）年12月、耐震改修等工事に着工し、翌年1月から休館しています。

平成25（2013）年11月現在の主な工事状況は以下の内容で進められています。

- ・建築関係については、第8展示室を除く展示棟・アトリエ棟屋根材の天然スレートからアルミプレートへの葺き替えによる軽量化や耐震補強壁の設置により、耐震化を行っています。
- ・その他、屋根防水、壁面・天井、展示室床改修等を実施しています。
- ・電気設備関係については、受変電設備更新、非常用発電設備更新のほか、発熱量、紫外線が少なく美術品への影響の少ないLED照明を導入しています。
- ・機械設備関係については、空調設備の熱源機器等の更新、消火設備のハロンガスの容器の更新を行っています。

県民の皆さまには長期間にわたる休館となり、御不便をおかけしておりますが、何卒御理解をお願いいたします。同時に、再開館後も皆さまに親しまれる美術館活動を運営するよう、職員一同邁進していく所存です。再開館に御期待ください。

なお休館中は移動美術館やワークショップ、実技講座をはじめ、学校や地域との連携事業を県内各地の施設を会場に開催しております。お近くの会場で県立美術館の催しがある際には、皆さまの御来場、御参加を心よりお待ちしております。



工事風景

## 平成25年度学芸課の業務から

今年度は、耐震改修等工事を行っている関係で休館中のため、業務内容は今まで以上に多岐にわたります。

ここでは、そのような学芸課の多くの業務のうち、今年度の代表的なものを2点紹介します。

### 1. 第37回千葉県移動美術館

千葉県は広大な県土をもち、中心地である千葉市までは、遠方だと3時間以上かかります。

当館では、そのような事情を考慮し、開館間もない昭和52年から千葉県移動美術館と称し、所蔵している絵画・工芸・書・版画などの作品を、県内各地の市町村施設を主な会場にして展示してきました。

会場は博物館施設はもとより、公民館や文化会館など様々であるため、毎回展示スペース等の条件が同じではありません。

そのため、展示の際には事前に会場を訪問し、展示室の広さや構造、作品搬出入口やセキュリティーの確認などを行い、図面上で展示レイアウトを決め、万全の体制で展示作業に臨んでいます。

また、今年度は工事の関係で館内で作品を見ていただくことができないので、例年1か所で行っている移動美術館を7か所に増やして、多くの県民の皆さまに作品を鑑賞していただいています。

今回の会場選定にあたっては、例年とは違い各地域振興事務所管内から候補地を選び、当館への来やすさやその地域での移動美術館の実施状況などを勘案して選定しました。

展覧会については、12月までに7回のうち5回が終了しましたが、ここでその間の実績概要を報告します。

今回の展覧会は、まず、7月6日から21日までの14日間、印旛管内の栄会場として県立房総のむら風土記の丘資料館で展示を行いました。房総のむらの中心部である町並みや農家ゾーンからは離れているため資料館まで来る見学者は入館者の割には少なかったようですが、それでも1,306名の入場者がありました。

次に、8月3日から18日までの14日間、東葛管内の野田会場として、県立関宿城博物館で展示を行いました。千葉県の最北端と言う土地柄、当館へは来館しにくい場所ですが、1,976人と本年度実施の移動美術館では

最高の入館者数でした。同館は、千葉、茨城、埼玉3県の県境に位置するため、広報も3県にまたがって行っているとのことで、千葉県のみならず、茨城、埼玉両県から



ギャラリートーク風景（南総文化ホール）

からの来館者も多く見られました。また、夏休み中と言うこともあり、小学生・中学生が多く見られたのも特徴的でした。

その後は、8月25日から9月8日まで安房管内の館山会場として千葉県南総文化ホールで、9月14日から29日まで香取管内の佐原会場として県立中央博物館大利根分館で、10月5日から27日まで山武管内の東金会場として東金文化会館で、それぞれ展示を行いました。

会場でのアンケート結果を見ると、千葉県立美術館まではなかなか行かれないので移動美術館の開催はありがたい、と好評でした。これは、千葉県の持つ地域性や急速に高齢化が進んでいることの表れと思われるかもしれませんが、今後はこのような問題にも真摯に向き合っていかなければならないと思います。

### 2. 収蔵資料の管理・保管

当館では2,400点あまりの作品を収蔵していますが、耐震改修等工事の関係で収蔵庫も工事の対象となり、今年度は作品



生物被害状況調査

を別置して管理しているため、今までの収蔵庫と仮収蔵庫との環境の違いが作品に影響を与えることが懸念されます。そのため、例年にも増して、温湿度環境や生物被害状況に関する調査に重点を置き、環境の保全に務めている所です。

具体的には、仮収蔵庫は2層構造になっているため、上層と下層の温湿度の変化を継続的に調査し、なるべく均一になるよう調整をしています。また、収蔵場所の変化による生物被害も懸念されることから、粘着トラップを施設各所に設置し、定期的に昆虫の確認を行い、対処しています。

## 平成25年度普及課の業務から

### 1. ワークショップ

当館のワークショップは、平成12年度文部省委嘱事業「親しむ博物館づくり事業」の一環として実施された「こどもワークショップ」が発端となり開始されました。その趣旨は児童生徒の美術教育の推進を目指し、エネルギーで躍動的な創作体験学習を通して、美術館活動への関心と興味を醸成し、子ども達に親しまれる美術館の促進を図ることを目的としたものです。ワークショップの経緯を顧みると内容を少しずつ変えつつ充実を図り、今年度で13年目を迎え定着した事業となっています。

さて本年度のワークショップは、耐震改修等工事による休館のため、文化ホール・会館や市民センター、生涯学習センター、千葉ポートタワー、千葉都市モノレール千葉駅構内、モノレール車両基地など県内施設9か所を会場として開催し、3歳児から大人まで439人が各地の会場で制作に取り組みました。内容はカンバッチ作りなど子どもが気軽に参加し短時間で制作できるものから、じっくりと2～3時間かけて制作に取り組む「立体万華鏡を作ろう!」、「小さなアニメーションを作ろう!」、「オリジナルモノレールを作ろう!」、「クリスマスオーナメントを作ろう!」など、バラエティーに富んだものを企画しました。各会場の参加者は、楽しんで制作に取り組み、完成した作品に満足し、次回開催を期待する声も多く聞かれました。



「オリジナルモノレールを作ろう!」制作風景

### 2. 実技講座

当館の事業「みる・かたる・つくる」の"つくる"活動の一環として、昭和53年度に洋画・木版画講習会が立ち上げられ、56年に実技講座と改称。以来、県内作家を講師としシニア世代の生涯学習の振興に寄与、美術鑑

賞の眼を養う一助とすることを目的とし、今年で開始より35年目を迎えます。



「陶芸講座（応用）」制作風景

例年講座は当館「県民アトリエ」を会場としますが、今年度は、陶芸は千葉県立房総のむら、篆刻はさわやかちば県民プラザでの開催とし、通常は県立美術館の所在地に近い千葉市エリア在住の皆さまのご参加が大半でしたが、他地域での開催によって北総や東葛地域の参加者が主流となりました。県立美術館の活動を知っていただく一つの契機となり、有意義な講座を開催することができました。

### 3. ホリデーアート

平成17年度より高校生以上の年代や勤労者に土曜日・日曜日を活用し講座に参加してもらうこと、若い年代層の参加によって美術館利用者の年齢層をより広げることを目的にホリデーアートが開講しました。平成23年度より版画に加えシルバーアクセサリーが講座に組み入れ



シルバーアクセサリー作品

られ、さらに若い受講者の増加を図ってまいりました。今年度のホリデーアートは、素材のコラージュにより抽象表現を楽しむコラグラフ、シルバーアクセサリーの2つの講座を

千葉県青少年女性会館で開催しました。いずれの講座でも、参加者はじっくり制作に取り組み、力作を作り上げました。

多様な県民ニーズに対応するための美術館活動の一つとして、今後も県立美術館ならではのワークショップ・実技講座を企画して皆さまをお待ちしております。

## 平成25年度普及課の業務から

### 4. 出張授業

学校へのお出張授業は、12月末現在で20件実施し、学習キットの貸出は10件実施しています。今年度は例年に比べて「日本画素材BOX」の利用件数が増加しており、学校では教材や用具の不足により実施する事が難しい日本画の授業を、学習キットを活用して支援を行っています。

この「日本画素材BOX」は、岩絵の具の顔料や日本画の制作に必要な用具、制作工程などが標準型のパネルに収められており、日本画の特徴を分かりやすく学習する事ができます。また、このキットには岩絵の具作製体験キットが付属しており、石から自分で岩絵具を作る体験を行うことができますので、知識と体験をバランスよく組み合わせ合わせた学習活動を展開することができます。



岩絵の具作製体験の様子

9月には千葉県美術館で開催された「琳派・若沖と花鳥風月」展を鑑賞する予定であった千葉市内2校の小学校を対象に、美術館訪問前の事前学習として「日本画素材BOX」を用いた出張授業を行いました。この2校の受入を担当した千葉県美術館の学芸員によると、子ども達は事前学習を体験したことにより、日本画への興味関心が高まり、細部までしっかりと鑑賞する事ができていたそうです。このように「日本画素材BOX」は、学校向けの学習支援キットとしてはもちろん、他の美術館との連携ツールとしても活用されています。

また日本赤十字社千葉県支部と連携して、昨年度に続き、福島県内の2か所で出前ワークショップ「夢づくり隊」を実施しました。さらに、ビルダーカードを用いて、千葉県内の学校を対象とした被災地理解のための「夢づくり隊～千葉県プロジェクト～」も1月中に2件実施する予定です。

その他にも、県環境研究センターと連携して、環境教

育の視点を加えた学習プログラムを開発し、落ち葉や枯れ枝等、現地にある自然物のみを用いて作品を制作するワークショップを千葉市内の中学校で実施しました。

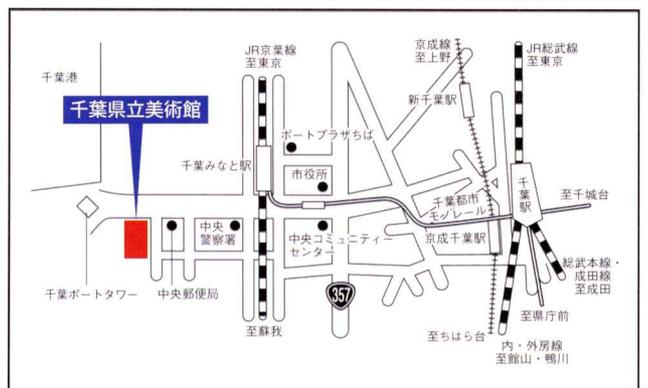


環境教育の視点を取り入れた授業の生徒作品

### 5. 地域連携事業

成田山表参道にある仲之町商店街の各店舗や、成田観光館のギャラリーを舞台にして、地元小中学生の作品展覧会「成田アート博覧会」を成田市立成田小学校、成田市立成田中学校、仲町街づくり協議会、成田市観光協会等と連携して開催しました。この取り組みは今年度で3回目を迎え、参加校も年々増加する等、着実に地域に根差した活動となってきました。地域社会と学校、美術館による三者連携の展覧会ですが、開催期間を「成田山公園紅葉まつり」と合わせることにより、子ども達の展覧会による地域活性化の側面も持ち合わせています。また、作品の解説文に英語表記を付け加えることにより、海外から訪れた参拝客にも展覧会を楽しんで頂き、日本の子ども達の作品を世界に紹介することにも繋がりました。

千葉県立美術館は、耐震改修等工事による休館のため、大変ご不便をおかけしております。改修後の開館時期については、詳細が決定次第あらためてお知らせいたします。何卒御理解の程をお願いいたします。



〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1 Tel:043-242-8311 Fax:043-241-7880  
<http://www.chiba-muse.or.jp/ART/>

千葉県立美術館報「みる・かたる・つくる」VOL40 (通巻102号)

2014年1月20日発行